和歌山大学教育学部附属小学校

らいぶ LIVE 創 つくりえいたー REATOR

NO.73

2014年11月

研究広報誌

CONTENTS

学びをデザインする子どもたち

～課題意識の深化を通して～

●２０１４研究発表会を終えて……1
●教育研究発表会を終えて（各教科部）……2
●ＩＣＴ活用授業研究会のお知らせ～子どもの反応が変わるICT活用～……3
●学習紹介（国語科）:学び合いを支える言語活動の充実……4
●学習紹介（ 理科 ）:おもさランキングで違いをさぐろう……5
●学習紹介（算数科）:動画でリアリティのある課題の算数授業……6
●学習紹介（生活科）：～もっとしりたいな　ぼくらがつかうバスのこと～……7
●学習紹介（社会科）：オランダの水泳教育～命を守る水泳～……8

# 2014 教育研究発表会を終えて



研究主任
梶本　久子

去る 11 月 2 日（日）に開催した教育研究発表会には，全国各地より多数の先生方にお集まりいただき，ありがとうございました。

本年度は，「学びをデザインする子どもたち」～課題意識の深化を通して～という研究テーマのもと，４月から研究実践を重ねてきました。校内研究授業ごとに助言の先生方にアドバイスをいただき，研究内容を見直してきました。

研究会当日は，８教科と複式の計 22 本の授業を公開しました。

ご参会いただいた皆様方には，本校の研究テーマにせまるために，課題意識の深化がどのような場面で，どのようになされていたのかを通して，特に下記の点に注目して授業を参観していただきました。

## 子どもたちがどのように学びをデザインしていたのか

授業後に行われた 14 の協議会では，参会者の方から積極的なご発言をいただき，私どもの提案した授業について十分協議を深めることができました。

また，午後からは体育館にて長年研究に携わっていただいた佐藤学先生と秋田喜代美先生の対談が行われ，本校のこれまでの歩みを踏まえた視点から，「学びをデザインする子どもたち」というテーマでお話しをしていただきました。私たちが研究していく上で，参考になることがたくさんありました。ほんの一部の紹介になりますが「個と個のつながりをみとる」「授業における教師の丁寧さ」「ドラマがみえる授業」「子どもが思考・探究する授業のよさ」など大切なことを教えていただきました。ご参会の皆様からは「具体的に授業を取り上げ、非常にわかりやすくお話しいただけたことが有難かった」「学力観について考えさせられた」などのご感想をいただきました。



本校は，今年度を研究の節目の年と位置付け、教育研究発表会を開催いたしました。

いただいたご意見をもとに研究の成果をまとめ，2015 年度は，さらなる研究テーマで提案させていただきます。

ぜひ，来年度も皆様のご参会をぜひお待ちしております。

# 教育研究会を終えて（各教科）　Action 2

| | |
|---|---|
| 国語科 | 今年度国語科部では，「学び合いを支える言語活動」をテーマに研究を進めています。研究会では，「たぬきの糸車」「モチモチの木」「ごんぎつね」の物語教材において，単元を貫く言語活動として「読み語り」を取り入れた実践を発表しました。今後も，子どもたちが三位一体の対話を通して，国語に対する関心を深め，興味をもって自発的・自主的に学びを進めていける学習活動を工夫していきたいと思います。協議会，アンケートでは貴重な御意見をたくさんいただき本当にありがとうございました。今後の研究にいかしていきたいと思います。 |
| 社会科 | 一人ひとりの学びの充実をめざして～ひとり学習を全体学習の場へ～をテーマに研究を進めてきました。３年生は紀州やさい“元ちゃん”の授業で，有機野菜作りをしている元ちゃんの野菜への思いに寄り添って話し合うことができました。５年生はわたしたちの生活と食料生産～ふるさと和歌山ＰＲプロジェクト～の授業で，和歌山から日本の食料生産について考え，現状と未来の食料生産，そして自分たちに何ができるのか話し合いました。協議会・アンケートで多くの貴重なご意見・ご助言をいただき誠にありがとうございました。今後の研究の参考にしていきたいと思います。 |
| 算数科 | 今年度，『子どもの思考が創る算数科学習～互いの考えを豊かに表現し合いながら～』をテーマに研究を進めてきました。<br>１年生「おおきさくらべ」の授業では，不平等のある広さくらべする中で任意単位のよさに目を向ける授業をめざしました。<br>２年生「はこの形」の授業では，展開された箱に描かれた線を実際の箱に描き入れる立体感覚にせまる授業をめざしました。<br>５年生「比べ方を考えよう」の授業では，部屋の混み具合を視覚的にとらえながら課題解決につなげる授業をめざしました。<br>６年生「場合の数」の授業では，箱の中から２色の玉を取り出す場合を子どもが能動的に調べ上げる授業をめざしました。<br>協議会・アンケートでは多くの貴重なご意見・ご助言をいただき，誠にありがとうございました。 |
| 理科 | 今年度，『科学的な見方・考え方を育て，自然事象の本質をさぐる理科の学び～「ふれあう・わかる・伝え合う」３つの楽しさの充実へ～』をテーマに研究を進めてきました。３年生では，「ものと重さ」の単元でイメージ図を活用し，体積が同じでもものによって重さはちがっていることについて考えを深めました。４年生では，「もののあたたまり方」の単元で水のあたたまり方についてイメージ図を用いて探りました。５年生では，「もののとけ方」の単元でとかしたものを冷やすことによって取り出すことができるのか実験し，考察しました。協議会では，イメージ図の活用のしかたについて，より研究を深めるための示唆を得られたと喜んでおります。多くの貴重なご意見をいただき，誠にありがとうございました。 |
| 生活科 | 「主体的に活動・体験し，気付きをの質を高める生活科学習」をテーマに研究を進めてきました。１年生「ひろがれえがお～ぽかぽか大さくせん」では，家で取り組んだ仕事について誇らしげに語る姿，興味津々におたずねをする姿から自信の高まりを感じることができました。２年生「もっとしりたいな　ぼくらがつかうバスのこと」は，調べたことと自分自身の経験をつなぎ合わせながら話し合い，運転手さんはお客さんが安全で気持ちよく乗れるようにしてくれていることに気付くことができました。協議会，アンケートでは貴重な御意見をたくさんいただき，ありがとうございました。今後の研究にいかしていきたいと思います。 |
| 音楽科 | 「比べる」ことでせまる音楽の魅力～思いや意図をもって表現できる子どもに～をテーマに，４年生「いろいろな音色を感じ取ろう～音をあつめて♪リズムアンサンブル～」，５年生「曲想を味わおう～つくろう！えんそうしよう！リズムアンサンブル♪～」を提案しました。４年生では，グループでおもしろい音色の組み合わせを工夫し話し合う中で“強弱”について気付くことができました。５年生では，和音進行を取り入れた木琴によるリズムアンサンブルづくりに挑戦し，曲想の変化について学びました。協議会は皆様から多くのご意見をいただくことができ，とても充実した時間となりました。誠にありがとうございました。 |
| 体育科 | ２年生の体つくり運動では「ワークショップ形式」で学ばせたい「動きの多様性」を引き出すことをめざしました。また６年生の「バレーボール」では「アタックを打つことをめざす」ことで学ばせたい３段攻撃の必然性につなげる取り組みを工夫しました。<br>協議会では，子どもの姿をもとに，上記の工夫について多くのご意見をいただくことができました。ご参観いただいた皆様の貴重なご意見を参考に，今後とも研究を進めていきます。ご参加ありがとうございました。 |
| 図工科 | ４年におよぶ修復を終え、京都国立博物館で公開され、話題になった「鳥獣人物戯画」から、甲巻の一部を鑑賞しました。有名なカエルとウサギの取っ組み合い（相撲）の場面を２つに分けて、グループで「どんな場面か」「どんなセリフをしゃべっているのか」などを話し合って、演じました。２つは、時間が経過した２場面だと解釈したグループと、つながった場所で同時に起こっている別の出来事だと解釈したグループがありました。鑑賞における課題意識の深化とはについて、たくさんの示唆に富むご意見をいただき、ありがとうございました。 |
| 複式 | 授業公開Ⅰでは，１・２年生算数，５・６年生理科，授業公開Ⅱでは，３・４年生国語を提案し，発達段階を追った主体的に学び合う子どもたちの姿を見て頂きました。授業後の低・中・高学年に分かれた研究協議会では，複式指導と教科指導の２つの視点から，子どもたちの育ちや，発達段階に応じた指導のあり方について意見を交流しました。３・４年生国語では，佐藤学先生がご参加くださり，ご指導いただきました。協議会でいただいた先生方の貴重なご意見やご感想を，今後の研究に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。 |

**多くの皆様のご参会，とてもうれしく**
**心より御礼申し上げます。**
**来年度も皆様のお越しをお待ちしております。**

和歌山大学教育学部附属小学校

# ICT活用授業研究会

## 学びをデザインする子どもたち

### ～子どもの反応が変わるＩＣＴ活用～



日　時：平成２７年１月３０日（金）１３時４５分～１６時５５分（受付１３時００分～）

会　場：和歌山大学教育学部附属小学校

ICT を活用した学習指導とは，主に教科の学習目標を達成するための ICT 活用です。学習課題への興味関心を高めたり，学習内容をわかりやすく説明したり，理解したりするために活用します。本校では普段使いの ICT 活用を参観してもらえるように取り組んでいます。ぜひ，ご参会ください。

内　容：

| | | |
|---|---|---|
| １３時００分～ | | 受付 |
| １３時４５分～ | １４時３０分 | 公開授業 |

| | | |
|---|---|---|
| １　年 | 国語科　（湯浅学級） | 「どうぶつの赤ちゃん」 |
| ３　年 | 社会科　（矢出学級） | くらしを守る消防の仕事 |
| ３･４年 | 複式国語（宮脇学級） | ３年「かるた」４年「ウナギのなぞを追って」 |
| ６　年 | 算数科　（小谷学級） | 拡大縮小の活用 |
| ６　年 | 体育科　（則藤学級） | 跳び箱活動 |

| | | |
|---|---|---|
| １４時３５分～ | １５時１５分 | 協議会 |
| １５時２５分～ | １６時５５分 | 講演会 |



問合せ：和歌山大学教育学部附属小学校
〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上 1-4-1
Tel:073-422-6105　Fax:073-436-6470
E-mail:fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp

URL http://www.aes.wakayama-u.ac.jp（詳細はこちらをご覧ください）

定　員：１５０名

（申し込みはＷｅｂのみとなります。１１月中旬開始で，上記の URL からお申し込みください。）

参加費：無料

※　事前お申込みなく当日参加はできません。必ずＷｅｂで申し込みをしてください。

＜全体講師＞

**豊田　充崇** 先生　和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター・准教授

※　参会者の写真・ビデオの撮影は，全面禁止とさせていただいております。

# 学び合いを支える言語活動の充実
## ～「ごんぎつね」における「読み語り」と「ウェーブ リーディング」の活用～

国語科
４年Ａ組　担任
小杉　栄樹



### １、「学び合いを支える言語活動」を充実させるために

本校国語科部では，「学び合いを支える言語活動の充実　～『対話』を通して主体的に読む力を育む授業の創造～」をテーマに研究を進めています。３つの対話，つまり，対象，他者，自己との豊かな対話により，子どもたちの「思考力」「判断力」「表現力」を育んでいきたいと考えます。そのために，特に「つけたい力の明確化」「単元を貫く言語活動」「教材との出合いの工夫」の３点を重視しています。本実践では，「『読み語り』にチャレンジする」という目的をもつことから学びがスタートし，「ごんぎつね」を中心教材として学習を進めていきます。それと並行して，「新美南吉」の他の作品や「きつね」がテーマとなった作品を多読することを通して，単元のねらいに迫っていきます。

### ２、「４Ａ子どもＬａＬａＬｕ隊」にチャレンジ！



今年度担任する４年Ａ組の子どもたちは，「読み語り」が大好きです。毎週行ってくれる保護者ボランティア「ＬａＬａＬｕ」による「読み語り教室」も大変楽しみにしています。「読み語り」の効果は，本に対する興味を高め，子どもの聞く力を伸ばすことはもちろん，想像力を育み，子どもたちの情緒的な発達を促すなど効果は計り知れません。また，「読み語り」を行ってくれている保護者のみなさんは，「子どもたちの楽しそうな表情を見ていると，『次はどんな本を選ぼうか』『どんな工夫をしようか』と，次回が楽しみなんです」と話してくれます。「読み語り」は，聞き手にだけでなく，語り手にも好影響を与える相互作用をもったコミュニケーションだと言えます。本実践では，子どもたちは，「４Ａ子どもＬａＬａＬｕ隊」として，「読み語り」にチャレンジしました。同じ本でも，語り手が違うと本の印象も変わってきます。語り手の気持ちがより伝わるよう，声の調子や表情，動作など，聞き手に楽しんでもらえる表現の工夫に取り組ませたいと考えました。そのためには，題材へのより深い理解が欠かせません。語り手と聞き手が，ひとときの時間と空間を共有できる，心温まる「読み語り」にチャレンジできる効果的な読解指導の工夫に取り組みました。

### ３、効果的な読解指導の工夫　～「ウェーブ　リーディング」の活用～

１０時間程度の単元構成で，「読み語り」を取り入れた言語活動を行う場合，たくさんの物語にふれることができるメリットがある反面，読み取りが浅くなるデメリットがあります。限られた時間の中で効果的な読解指導を行う工夫として，「ウェーブ　リーディング」を活用しました。「ウェーブ　リーディング」とは，物語を読む視点を変えて，全文通読を繰り返す単元構成を意味します。本実践では，「ごんの性格」「ごんの心の変化」「『つぐない』をするごんの気持ち」「『引き合わない』と考えるごんの気持ち」「ごんと兵十の心の通い合い」の５つのテーマで話し合いました。成果として，話し合いを進める中で，心の交流への切ない願いとそれが果たされない悲しみ，互いに理解し合えた喜びというような感情について，子どもたちなりに共感しながら「新美南吉とごんぎつねの世界」に浸ることができました。課題として，「ウェーブ　リーディング」で話し合うテーマについて，教師主導で設定してしまった点があげられます。子どもたちと教材との出合いの中で出された子どもの思いに沿ったテーマにしていくことが大切になってくるものと考えます。また，ワークシートや付せん，ファイルを利用し，自分の考えを書き残すなど，子どもたちの「学びの足跡」を残したり，「新美南吉ときつねの読書コーナー」を設けるなど教室環境を整えることにより，「ウェーブ　リーディング」での話し合いがより充実していくものと考えます。



### ４、終わりに　～人間関係を育む言語活動～

教室内の言語活動を充実させ，質を高めていくことは，教室内の人間関係を育むことにつながります。今後も，劇化したり，新聞やリーフレットにまとめたり，討論したりするといった活動を取り入れていくこと，他のクラスや学年の友だち，家族，地域の方々を対象として，言語活動の輪を広げていくことなど，教室の中の言語活動をより充実させる工夫を研究していきたいと思います。

## おもさグランプリ 2014 で違いをさぐろう！！
～ものと重さの単元より～

理　科
３年Ｂ組担任
馬場　敦義



### ★見た目にだまされてはいけない！




本単元は，ものと重さについて興味・関心をもって追究する活動を通して，ものの形や体積，重さなどの性質の違いを比較することで明らかにし，それらの関係をさぐり，ものの性質についての認識を深める単元です。見た目にだまされてはいけないと前時で学習したことを踏まえて，さらに，左図のようなビール缶の重さ比べを行いました。A500ml のアルミ缶，B350ml のアルミ缶，C500ml アルミ缶をつぶして高さを 350ml 缶としたもの，D350ml のスチール缶，E135ml のアルミ缶。この重さ比べにはポイントが３つあります。１つ目は素材が同じで体積（大きさ）が大きいものほど，重さも重くなっていること，２つ目は形を変えたものも元の形のものと同じ重さになること，３つ目は体積が同じでも素材が違うと重さが違うことです。




まずは，見た目だけで予想をしてみると，多くの子はAが一番重く，Eが一番軽いと予想し，Cは小さくなっているからBよりも軽いと予想していました。そんな中，ある男の子は，「つぶれた缶は，となりのBとDと同じ高さだけど，つぶれてその高さだから元々はもっと高かったはずだ。」と意見を出し，みんなも納得していました。つぎに，手で持った予想を行いました。手で持ってみると，意外と予想がわかりにくくなり，子どもたちの予想はばらつくようになりました。予想を発表した後，班ごとに上皿自動ばかり（以下，はかり）を使って重さを調べました。実験をしながら，見た目は同じBとDであるが，明らかにDのほうが重いことに疑問をもち，よく缶を調べることでスチール缶であることをつきとめている子どもたちが多くいました。実験後の考察や感想を見ると，「やっぱり見た目にだまされてはいけない。」「つぶれていても同じ重さになった。」「スチール以外は，背の順番になった。」という意見がでてきました。

|  |  |  |
|---|---|---|
| 見た目で予想する | 手で持って予想する | はかりでたしかめる |

### ★質の良い体験が子どもの学びを高めていく！

子どもが生活経験で得た素朴概念は，なかなか変化しないものです。例えば，体重計につま先だけで立った状態で乗っても，しゃがんだ状態で乗っても，普通に乗っても体重が変わらないというのは子どもたちによって意外なはずです。ものの形が変わっても重さは変わらないということを理解させるには，質の良い体験をたっぷりと保障してやることが大切です。ねんどを使う場合なら，いろいろ形を作らせ，本当に「どの形でも」重さが変わらないことをたしかめさせたいものです。そして，ねんど以外のものでも同様に変わらないことを調べさせることが子どもたちの学びを確かなものしていきます。ものが違うと，体積が同じでも重さが違ってくるということも子どもたちにとってなかなか理解しがたい内容であり，体積と重さの関係についてもいろいろな角度から実験できるようにしたいですね。

## 動画によるリアリティのある課題の算数授業

算　数
２年Ａ組担任
市川　哲哉



「ジャスパープロジェクト」[1]をご存じでしょうか。算数の問題発見と解決の技能育成を目標に，1991 年にアメリカで開発された動画教材です。そのプロジェクトを参考にして，2014 年本校夏季教科領域別研修会で行った公開授業（２年生）の実践を紹介します。

### 《リアリティのある課題で意欲を》







子どもたちに日常生活を思い起こさせる動画を作りました。そしてＡ「ラーメン屋に並ぶ順序」，Ｂ「待ち合せの時刻までかかった時間」，Ｃ「３人の所持金とお釣りから買ったお菓子」の３つの問題を用意しました。

子どもたちは動画を見て，自分の経験を思い起こすことができ，文章での問題よりも意欲的に取り組むことができました。特に最後の買い物のシーンになると，見逃さず情報を得ようと，身をのりだして動画を見ていました。

### 《不自然な問題文の解消を》

算数の逆思考の問題はどうしても言葉に不自然さが出てしまいます。しかし，動画で表現すると，場面をカットしたり，道具を有効に使ったりすることで自然な流れで問題にすることができます。

３つ目の問題を，文章で表わすと次のようになります。

> ３人でお菓子を買います。それぞれ３３円，２６円，２８円持っています。お店には，あめ３４円，スナック８４円，ガム５０円，チョコ４０円，ポテト８６円が売っていました。３人のお金を合わせてお菓子をいくつか買いました。するとお釣りは１３円でした。３人はどのお菓子を買ったでしょう。

「お菓子をいくつか買いました。」とても不自然な日本語ではないでしょうか。普通の生活の中に「いくつか買う」などということはありません。自分が買ったのなら何を買ったか分っています。誰かが買ったのなら，そのお釣りからいくらのものを買ったのか考えることなどありません。

数字情報
①待ち合せの時刻 1:30
②並んでいる人　１２人
③並びはじめた時刻 11:50
④列から２人お店に入る
⑤列から３人離れる
⑥食べ終わった時刻 12:45
⑦１人目の所持金　３３円
⑧２人目の所持金　２６円
⑨３人目の所持金　２８円
⑩あめの値段　３４円
⑪スナックの値段　８４円
⑫ガムの値段　５０円
⑬チョコの値段　４０円
⑭ポテトの値段　８６円
⑮お釣り　１３円

### 《情報を取捨選択する力を》

今回の動画の中に数字の情報は全部で１５個出てきます（右図）。映像として見える情報もあれば，音声だけの場合も作りました。その多くの情報の中でＡ問題に必要な情報は３個，Ｂ問題も３個，Ｃ問題の情報は９個にもなりました。しかも情報は順番通りにしていません。

それぞれの問題を解く上で，多くの情報から必要なものだけ取り出し，不必要なものは捨てさることがカギになってきます。

また，動画を流したのは３回と少なめにしました。それは情報収集するために，しっかり見たり聴いたりしてほしいという期待からでした。

### 《対話する力を》



動画を流すのを少なくしたもう１つの理由は，ペアで考えさせたかったからです。１人では十分に得られなかった情報も，ペアになるとかなり補えると考えられます。その上で違う数字情報を得ている場合などはペアでの対話がおこる可能性があります。また複雑な問題（Ｃ問題）などでも対話が生まれるのではないかと期待して作りました。

実際の授業では，多くのペアで話し合いや対話が生まれましたが，問題に対する情報を２人共得られていなく，困ってしまうペアもありました。それぞれの問題提示と動画を見せるタイミングを考えることと動画を見せる適当な回数を考えるという反省点が見えてきました。

「ジャスパープロジェクト」は，５・６年生対象で，速さや統計など高度な問題になっています。今回は２年生という学習段階でどうしても問題や数字情報で制限されてしまいましたが，動画を使うことによって，上記４点の効果が期待できます。最近の ICT 機器の普及により十分可能な課題提示の方法だと考えます。

---

[1] 鈴木克明「教室学習文脈へのリアリティ付与について－ジャスパープロジェクトを例に－」

# もっとしりたいな　ぼくらがつかうバスのこと

生活
２年Ｂ組担任
田中　千映



この単元は，生活科の「公共物や公共施設の利用」の内容です。学級の子どもたちのほとんどが，通学時にバスを利用しているので，子どもたちにとってバスは身近な公共の交通機関です。このバスこそ，自分の課題として追究したいと思えるのではないかと考え，単元を組みました。

## ◇主体的に活動するために

### 「バスの中はどうなっているのだろう？」

子どもたちが主体的に活動できるには，「なぜだろう」「調べたい」と思えるハテナをもてることが大事と考えます。そこで，単元の導入部では，それぞれが描いたバスの絵を比べ「バスの中はいったいどうなっているのだろう？」と子どもたちが思えるようにしました。



### 〈調べに行こう〉

実際にバスに乗り，バスの中がどうなっているのかを調べに行きました。県庁前から和歌山駅の往復です。毎日通学に使っている子どもたちですが，ミラーや行き先・料金を表示する掲示板，つり革，手すり，降車ボタン，防犯カメラ，整理券発行機などを再確認していました。さらにハテナも出てきました。そこでハテナ解決に向け，再びバスに乗り調べに行くことにしました。それでも解決できなかったことは営業所に質問に行き教えてもらいました。



【1回目】 わたしが見たところは，つり革が（三角の絵）こんなふうになっていました。立っている人が持つ（手すりの絵）こんなぼうが少ないし，そのぼうにボタンがありました。あと上にもボタンがあって，子どもだと押せないぐらいの高いボタンがあって，なぜそんなに高いところにボタンがあるのかふしぎに思いました。

【2回目】「どうして天井に降車ボタンがあるのか」の答えは，先生の背で見てみると，大人で低い人でも押せることがわかったよ。「座席に優先シールをはっていた」の答えは，オレンジ色の席に優先シールがはっていたよ。その席には，年をとった人が座っていたから年をとった人が座るんだとわかったよ。

### 「運転手さんはどんなお仕事をしているのかな？」

これまでの学習で，子どもたちはバスの中がお客さんのことを考えて作られていることに気づいてきていました。そこで子どもたちに，「運転手さんはどんなお仕事をしているの？」と投げかけたところ，「運転する」「人をのせる」「他には・・・」と，困った様子でした。そこで，運転手さんの仕事を詳しく調べるために，またバス（市内雑賀崎循環バス　県庁前～県庁前）に乗りに行くことにしました。

### 〈発表しよう〉



「Wバスの運転手さんはどんなお仕事をしているのかな？」

ｃ：県庁前から県庁前に行った時ありますよね。
その時，席が満員だったので，運転手さんが，
「席をゆずってくれませんか？」って言ってました。
〈実際にその様子をやって見せる〉

ｃ：〇〇君に似ていて，座らせてあげてよって言う時，
ミラーを見て言っていたと思います。
ちょっと見えにくいと思うけど，ここにある鏡で見て，
「座らせてあげなあよ」って言っていたんだと思います。



## ◇気付きの質を高めるために

気付きの質を高めるためには，一人一人が活動や体験を十分できることが必要と考えます。今回も何度もバスに乗り，バスの設備や運転手さん，お客さんなどにじっくり関わることができるようにしました。また，バスに乗った後は必ずワークシートに分かったことやハテナに思うことを書くようにしました。子どもたちは書くことで自分の気付きを整理することができたように思います。これまでの学習で，子どもたちは，お客さんのためにバスの中が工夫されていること，運転手さんはお客さんが安全で気持ちよく乗れるようにしてくれていることに気づくことができました。単元の終わりには，「前は〇〇だったけど，学習した今は，〇〇だよ」と子どもたちが言えるようになればといいなと思っています。

# オランダの水泳教育
## ～命を守る水泳～

社会科
３年Ａ組　担任
矢出　大介



**○ 運河が多い国オランダ**

オランダは運河が多にも関わらず，その上ガードレールがほとんどない。しかし，水の事故で命を落とす人の割合は日本よりも少ない。

その理由として，オランダでは運河に落ちないことよりも，落ちた時に生きて脱出することに主眼を置いた取り組みことがあげられる。

**○オランダの水泳事情**

**① プールの環境**

日本のほとんどのプールは着衣での入水を認めていない。それに，水泳キャップを必ず着用するようになっている。これは，浄化装置のポンプに髪の毛や繊維がつまって故障の原因になるからです。しかし，オランダのプールでは，水泳キャップの着用せずに入水すること，着衣での入水を認めている。その大きな理由としては，着衣水泳の練習の重要生が浄化装置の故障という管理側の問題を上回っている。練習用のプールは，子どものひざ下ぐらいまでしかない浅いプールと深さ約３メートルの深いプールがあります。水泳検に合格しないと深いプールで泳ぐことができない。

**② オランダの水泳教育**

オランダでは，きれいに速く泳ぐことよりも，不意に水に落ちてしまった時の対処を学ぶ水泳を学んでいる。そして，国が定めた水泳の検定試験があり，それぞれのプールにその資格を取得するためのインストラクターがいる。水泳検定試験は３段階あり，今回は初級の検定内容を紹介する。



水泳検定合格証をもらう子ども

① 水着の上に衣類（＝半袖のシャツ＋膝までの短パン＋運動靴）を着用のまま、プールに飛び込み、頭まで潜る。
② １５秒間その場で立ち泳ぎ、１２．５ｍを平泳ぎし、途中の障害物（＝水に浮かべてあるマット）を潜り抜け、１２．５ｍを仰向けになりかえる足で泳ぎきり、階段を使わずにプールから上がる。
③ 濡れた服を脱いで水着だけになり、再び２５ｍプールに飛び込み、 潜水したまま３メートル先の障害物の下を潜り抜けた後、平泳ぎで５０ｍ、仰向けの平泳ぎで５０ｍを泳ぎ、プールから上がる。
④ プールに入り、うつ伏せで（手足は全く動かさずに）１０秒間静かに浮かんだ後、数ｍ平泳ぎ、今度は５秒間静かに浮かんだ後、数ｍ平泳ぎをする。
⑤ 仰向けで１０秒間（手足は全く動かさずに）静かに浮かんだ後に数ｍ仰向けの平泳ぎ、というのを２回繰り返す。
⑥ クロール８ｍ、背泳ぎ８ｍを泳ぐ。
⑦ 最後に、６０秒間その場で立ち泳ぎをする。（途中２回方向転換する）

水泳検定試験に合格しないと，どこで泳ぐときも１８歳以上の人に引率が必要になる。ほとんどの子どもは上記の検定に合格する。クロールできれいに泳ぐことはできなくても，なんなく５０ｍを泳いだり，飛び込みをしたりして水泳を楽しむオランダの子どもたちを見て，このような水泳教育も大切だと感じました。

**From Editors**

『らいぶ・創りえいたー』も 14 年目を迎えました。「生き生きと本物を創り出すひと」という意味を込めています。本校ホームページにはカラー版を掲載しています。ご意見・ご感想をお寄せ下されば幸いです。

編集委員：矢出，中西，川村，居澤，宮脇，田中

**和歌山大学教育学部附属小学校**
〒640-8137　和歌山市吹上１丁目４番１号
TEL　（０７３）４２２－６１０５
FAX　（０７３）４３６－６４７０
URL　http://www.aes.wakayama-u.ac.jp
Ｅ－mail　fuzoku@center.wakayama-u.ac.jp